

計 画 期 間

令和3年度～令和12年度

大郷町肉用牛生産近代化計画書

令和4年3月

大郷町

目 次

I	肉用牛生産の近代化に関する方針	1
II	肉用牛の飼養頭数の目標	3
III	近代的な肉用牛経営方式の指標	4
IV	肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項	7
V	国産飼料基盤の強化に関する事項	8
VI	肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置	9
VII	肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項	9

I 肉用牛生産の近代化に関する方針

本町は、宮城県の中央部で仙台市の北東部に位置し、吉田川流域の肥沃な耕地のもと、稲作を主に、畜産、野菜、果樹、施設園芸等の複合農業を展開してきた。この中で、肉用牛部門は、農業粗生産額の約2割を占めており、本町農業の重要な基幹作目となっている。一方、近年の肉用牛経営においては、消費者サイドからは安全で衛生的な畜産物の生産が求められるとともに、生産サイドにおいては穀物飼料への過度の依存、労働加重、非農家との混在化の進展による環境問題の発生、さらに従事者の高齢化、担い手不足による生産基盤の弱体化等様々な問題が顕在化している。このような状況の下、本町畜産がこれらの課題をクリアし、将来にわたってその役割を引き続き果たしていくために、肉用牛生産は土地利用型農業の基軸であるという本来の意義を再確認し、「土、草、牛」という生産要素のバランスのとれた肉用牛経営を確立することが重要である。また、個々の経営体の主体的な生産努力を基本にしつつ、町等が必要な施策を講じることが重要である。このため、下記の項目に基づき各種の取り組みを行いながら、高品質で低コストかつ生産性の高い肉用牛生産の振興を行う。

① 肉用牛経営の増頭・増産

- ・畜産クラスターの継続的な推進により、畜産農家、流通・加工業者、市町村、農協等の地域の関係者の連携・協力を通じて、地域全体で畜産の収益力の向上を目指す。
- ・肉用牛において、個々の経営の分業化・省力化を支援することで飼養規模の拡大を推進し、繁殖・肥育一貫経営への移行を促進する。

② 中小規模の家族経営を含む収益性の高い経営の育成、経営資源の継承

- ・後継者の育成・確保も含めて農業者を経営者として育成するため、先進優良事例紹介や生産、財務、雇用等の経営管理各種研修会等への参加を促し、小規模な家族経営を含む意欲ある肉用牛経営者が、意欲的に経営を継続させる体制を整える。

③ 経営を支える労働力や次世代の人材確保

- ・雇用、就農機会を創出するため、畜産クラスターの取組を活用し、地域における肉用牛生産の振興を図る。また、畜産クラスター計画の中心的経営体として担い手を明確化し、施策の集中や重点化を行い、競争力の高い生産構造を確立する。
- ・それぞれの経営体や地域社会等に対し、女性のより一層の参画を推進するとともに、高齢者が有する高度な技術の活用を行う。また、施策の集中や重点化を行い、競争力の高い生産構造を確立する。
- ・作業の外部化を積極的に推進するため、コントラクターやヘルパー等の普及・定着を図る。

④ 家畜排せつ物の適正管理と利用の推進

- ・堆肥の成分分析を踏まえた化学肥料の代替資材としての利活用や、バイオマスエネルギーの利用を含めた積極的な活用を推進する。
- ・国が策定した「環境規範」の遵守を通じ、家畜排せつ物の適正な管理を一層推進するとともに、耕種農家も含めた農業者の環境保全に向けた取り組みを推進する。
- ・耕畜連携による飼料生産や荒廃農地の放牧等を通じて、堆肥の有効利用による資源循環の確保や農村景観の改善を図る。

⑤ 国産飼料基盤の強化

- ・草地の計画的な整備や遊休農地の活用により、自給粗飼料生産を推進し、稲わらの飼料利用や飼料用米、稲発酵粗飼料等の飼料作物の生産拡大の取り組みを推進する。
- ・耕畜連携及び水田の活用による自給粗飼料生産を推進し、稲わらの飼料利用や飼料用米、稲発酵粗飼料等の飼料作物の生産を行うとともに、良質な完熟堆肥の供給と農地還元等の取り組みを推進する。

⑥ 家畜衛生対策の充実・強化

- ・飼養衛生管理基準の遵守指導、発生時の円滑・迅速な防疫措置の体制を構築する。

⑦ 安全確保を通じた消費者の信頼確保

- ・生産段階における衛生管理の徹底等を推進する。
- ・学校教育に代表される教育関係者等との連携を強化し、子供たちやその保護者への「食」に関する情報の提供を行い、生産者と消費者の双方向での情報交流の促進等の取り組みを推進する。

II 肉用牛の飼養頭数の目標

区域名	区域の 範囲	現在（平成30年度）								目標（令和12年度）							
		肉用牛 総頭数	肉専用種				乳用種			肉用牛 総頭数	肉専用種				乳用種等		
			繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計		繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計
大郷町	全域	1,840	665	987	73	1,725	0	115	115	2,410	871	1293	95	2,259	0	151	151

- （注）
1. 繁殖雌牛とは、繁殖の用に供する全ての雌牛であり、子牛、育成牛を含む。
 2. 肉専用種のその他は、肉専用種総頭数から繁殖雌牛及び肥育牛頭数を減じた頭数で子牛を含む。以下、諸表において同じ。
 3. 乳用種等とは、乳用種及び交雑種で、子牛、育成牛を含む。以下、諸表において同じ。

III 近代的な肉用牛経営方式の指標

(1) 肉専用種繁殖経営

目指す経営の姿	経営概要					
	経営形態	飼養形態				
		飼養頭数	飼養方式	外部化	給与方式	放牧利用 (放牧地面積)
黒毛和種 混合経営	家族 (1戸1法人含)	頭 30	群飼 スタンション	肉用牛ヘルパー、 キャトルステーション、 キャトルブリーディングステーション	分離給与	(ha) 公共放牧、 水田、耕作放棄地等での放牧 5ha
黒毛和種 単一経営	家族 (1戸1法人含)	80	群飼 スタンション	肉用牛ヘルパー、 キャトルステーション、 キャトルブリーディングステーション	分離給与	公共放牧、 水田、耕作放棄地等での放牧 5ha

生産性指標																	備考
牛				飼料							人						
分娩 間隔	初産 月齢	出荷 月齢	出荷時 体重	作付体系 及び 単収	作付延べ面積 ※放牧利用を 含む	外部化	購入国産 飼料 (種類)	飼料自給率 (国産飼 料)	粗飼料 給与率	経営内堆肥利 用割合	生産コスト 子牛1頭当たり 費用合計 (現状との比較)	労働 子牛1頭当 り 飼養労働時間	総労働時間 (主たる従 事者)	粗収入	経営費	農業 所得	
ヶ月 13.0	ヶ月 25.2	ヶ月 9.1	kg 281	kg 混播牧草 3,240 飼料用トウ モロコシ 4,620	ha 6.0	個別完結	稲WCS 飼料用米	% 88.2%	% 60.9%	割 経営内 10.0 経営外 0.0	円 (%) 519,099 (90)	hr 95.4	hr 2,298	万円 1,794	万円 744	万円 1,051	万円 556
13.0	25.2	9.1	281	混播牧草 3,240 飼料用トウ モロコシ 4,620	16.0	生産組織 コントラク ター	稲WCS 飼料用米	89.7%	62.3%	経営内 10.0 経営外 0.0	452,409 (90)	74.0	4,753	4,693	1,809	2,884	942

(注) 1. 「方式名」欄には、経営類型の特徴を、「備考」欄には「方式」の欄に掲げる方式を適用すべき区域名等を記入すること。

2. 6次産業化の取組を織り込む場合には、基本方針の第3の票のように、6次産業化部門に係る指標を分けて記入すること。

(2) 肉用牛（肥育・一貫）経営

目指す経営の姿	経営概要					
	経営形態	飼養形態				
		飼養頭数	飼養方式	外部化	給与方式	放牧利用 (放牧地面積)
黒毛和種 肥育経営	家族 (1戸1法人含)	頭 150	牛房 群飼	肉用牛ヘルパー	分離給与	(ha) 舎飼
黒毛和種 一貫経営	法人 (1戸1法人含)	繁殖 20 肥育 80 計 100	牛房 群飼 スタンション	肉用牛ヘルパー	分離給与	舎飼

生産性指標														備考				
牛					飼料						人							
肥育開始時月齢	出荷月齢	肥育期間	出荷時体重	1日当たり増体量	作付体系及び単収	作付延べ面積 ※放牧利用を含む	外部化	購入国産飼料(種類)	飼料自給率 (国産飼料)	粗飼料給与率	経営内堆肥利用割合	生産コスト	労働		経営			
												肥育牛1頭当たり費用合計 (現状との比較)	肥育牛1頭当たり飼養労働時間	総労働時間 (主たる従事者)	粗収入	経営費	農業所得	主たる従事者1人当たり所得
ヶ月 9.1	ヶ月 27.0	ヶ月 17.9	ヶ月 820	kg 0.99	kg 混播牧草 3,240 飼料用トウモロコシ 4,620	ha 6.0	個別完結	稲WCS 飼料用米	% 33.4%	% 13.1%	割 経営内 6.0 経営外 4.0	円 (%) 373,157 (90.0)	hr 48.5	hr 7,277	万円 13,988	万円 12,720	万円 1,268	万円 587
9.1	27.0	17.9	820	0.99	混播牧草 3,240 飼料用トウモロコシ 4,620	11.0	生産組織 コントラクター	稲WCS 飼料用米	51.5%	26.8%	割 経営内 6.4 経営外 3.6	371,013 (90.0)	125.8	4,173	7,367	5,672	1,695	856

(注) 1. 繁殖部門との一貫経営を設定する場合には、肉専用種繁殖経営の指標を参考に必要な項目を追加すること。

2. 「肥育牛1頭当たりの費用合計」には、もと畜費は含めないものとする。

IV 肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項

(1) 地域別肉用牛飼養構造

	区域名		① 総農家数	② 飼養農家 戸数	②/①	肉用牛飼養頭数							
						総数	肉専用種				乳用種等		
							計	繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種
肉専用種 繁殖経営	大郷町	現在	戸 609	戸 34	% 5.6	頭 738	頭 738	頭 665	頭 73				
		目標		34		966	966	871	95				
肉専用種 肥育経営	大郷町	現在	609	17	2.8	987	987		987				
		目標		17		1,293	1,293		1,293				
乳用種・交雑 種肥育経営	大郷町	現在	609	2	0.3	115				115		115	
		目標		2		151				151		151	

(注)()内には、一貫経営に係る分(肉専用種繁殖経営、乳用種・交雑種育成経営との複合経営)について内数を記入すること。

(2) 肉用牛の飼養規模の拡大のための措置

- ① 規模拡大のための取り組み
- ② 規模拡大は困難だが経営規模を維持するための取組
- ③ ①・②を実現するための地域連携の取組

本町の肉用牛経営は、繁殖牛飼養と肥育牛飼養に大別され、一貫経営に取り組む農家も散在している。肉用牛飼養戸数は、飼養農家の高齢化等により減少傾向にあるが、繁殖経営及び肥育経営の一戸当たりの飼養頭数は拡大(増加)傾向にある。このような状況の中、生産コストの低減と所得の確保、飼料自給率の向上、畜産農家の労働負担軽減と稲わら等の未利用資源の活用を推進し、受託組織等の支援を行う

肉専用種繁殖経営については、大部分が水稻を基幹とした複合経営で飼養規模は零細であることから、今後、事業的な経営の飼養規模の拡大に加え、複合経営についても安定的な飼養規模を図ることを基本に、飼料基盤の拡大、放牧の積極的な推進、分娩間隔の短縮等による生産コストの低減に努める。

肉専用種肥育経営については、多様化する消費者・実需者ニーズへの的確な対応に留意しながら、「仙台牛」等の高品質牛肉の生産に努めながら、増体重の向上、飼料供給方法の改善、個体能力の的確な把握、肥育期間の短縮等による生産コストの低減に努める。

V 国産飼料基盤の強化に関する事項

1 飼料の自給率の向上

		現在	目標（令和12年度）
飼料自給率	乳用牛		
	肉用牛	36.2%	37.5%
飼料作物の作付け延べ面積		112.3ha	145.3ha

2 具体的措置

①粗飼料基盤強化のための取組

主食用米の需要減少に伴い、転作作物として飼料用米や稲発酵粗飼料の作付けが拡大している。そのため、今後も農協等の関係団体と連携し、耕畜連携による作付面積増加の更なる推進を図り、飼料用米の作付面積は91ha、稲発酵粗飼料の作付面積は10haを目標とする。

また、飼料用米や稲発酵粗飼料の利用率を高めるために、給与体系の確立及び農協等と連携し、県内の稲発酵粗飼料及び飼料用米の需要拡大を図っていく。

②輸入とうもろこしの代替となる飼料生産の取組

輸入とうもろこしの代替である、子実用とうもろこし栽培は、現在、町内では行われていない。

国内需要に対し、生産が追い付いていない子実用とうもろこしは、高収益の作物として、これから栽培技術の確立及び子実用とうもろこしに適した品種の推奨を行う。

また、子実用とうもろこしの栽培拡大とあわせて、飼料会社や農協等関係団体と連携した販路確立を推進する。

VI 肉用牛の共同出荷その他の肉用牛の流通の合理化のための措置

(1) 肉用牛（肥育牛）の出荷先

	現在（令和3年度）				目標（令和12年度）			
	出荷頭数 ①	出荷先		②/①	出荷頭数 ①	出荷先		②/①
		県内 ②	県外			県内 ②	県外	
肉専用種	頭 672	頭 401	頭 271	% 59.7	頭 862	頭 514	頭 348	% 59.7
乳用種	0	0	0		0	0	0	
交雑種	12	12	0	100.0	75	75	0	100.0

(2) 肉用牛の流通の合理化

本町での出荷は全て農協を通しての系統出荷であるが、今後さらに産地間競争が激化する中で、仙台牛の産地という地位をさらに確立するためにも系統出荷の流通体制強化を図る。

VII 肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

計画期間内に重点的に取り組む事項

【事項番号① 肉用牛経営の増頭・増産（対象地域：全域）】

受精卵移植関連技術等を活用し、肉質・高増体の肉用牛の改良を推進し、さらに優良種雄牛の精液を活用するとともに、優良種畜の導入・保留に努め、生産基盤強化を図る。

また、受精卵移植関連技術を活用した乳用雌牛からの肉専用種生産の拡大を推進する。

【事項番号③ 経営を支える労働力や次世代の人材の確保（対象地域：全域）】

経営感覚（経営判断・技術向上・牛群改良等）に優れた効率的・安定的な経営体を育成するために、高度化・多様化している生産・経営管理技術等を考慮し、地域や個々の経営実態に即した指導を行う。

大郷町和牛の郷づくり推進協議会と大郷町家畜防疫協議会を発展的に解散統合し、平成21年度から大郷町和牛生産協議会を立ち上げ、総合的に組織の強化及び事業の拡充を図っている。平成27年度からは黒川地域畜産クラスター協議会に加入し、地域の畜産の収益性の向上を目指してきたところである。

また、労働時間の軽減、周年拘束性の解消を図るため、肉用牛ヘルパー等の地域における経営支援組織の育成・定着を推進する。

【事項番号⑥ 家畜衛生対策の充実・強化（対象地域：全域）】

飼養衛生管理基準遵守の推進および疾病発生時の体制の確立、家畜疾病診断体制の充実、家畜衛生情報ネットワークの構築等により、家畜生産性の阻害要因となる家畜伝染病、感染症等の対策をさらに推進する。